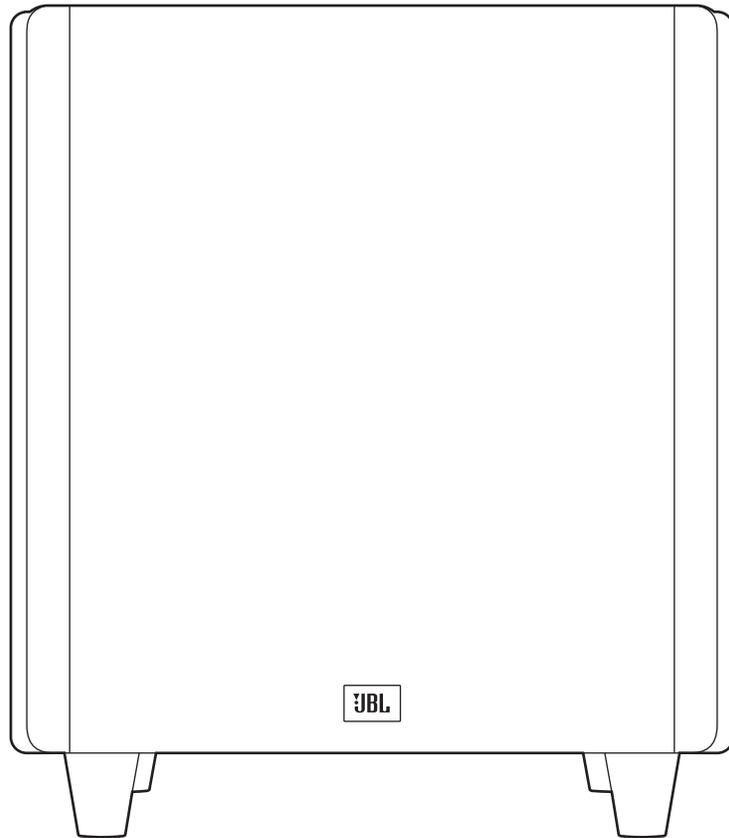




# STUDIO 650P/660P

パワード・サブウーファー

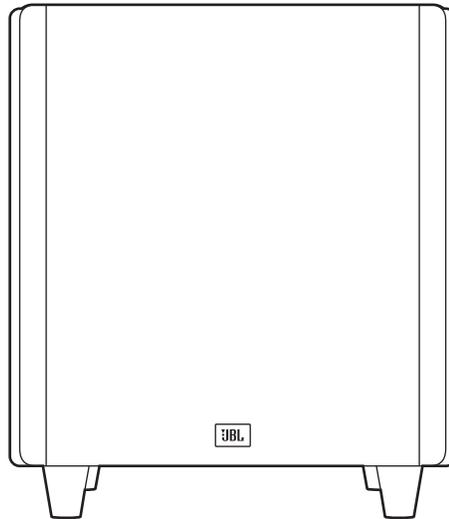


取扱説明書



# STUDIO 650P/660P

パワード・サブウーファー



650P/660P

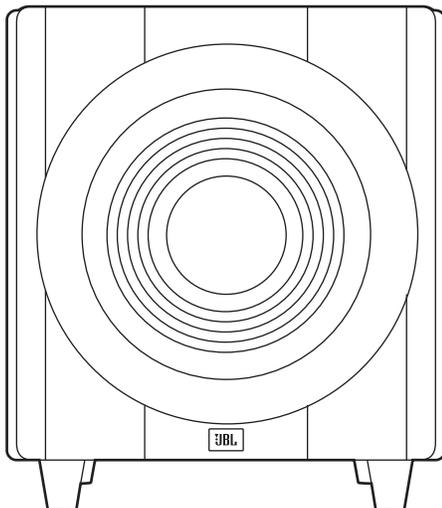
## JBL®製品をお選びいただき、ありがとうございます

新しいJBL®パワードsubwooferは高性能トランスデューサーと内蔵アンプを組み合わせています。映画のサウンドトラックや音楽を迫真に満ちたものにする、パワフルでダイナミックかつ精密な低周波パフォーマンスを実現しています。そして、調整可能なクロスオーバー、位相コントロール、自動オン/オフ機能を備え、接続と設定もシンプルです。

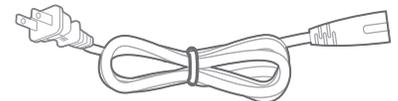
このサブウーファーはすぐれた低音のレスポンスを実現するJBLのサウンドを継承しています。

このクイック・スタート・ガイドにはお客様の新しいサブウーファーを設置、接続、調整するのに必要な情報が全て記載されています。より詳細な情報を得るためには、弊社のウェブサイトへアクセスしてください: [www.jbl.com](http://www.jbl.com)

## 同梱品目



4X

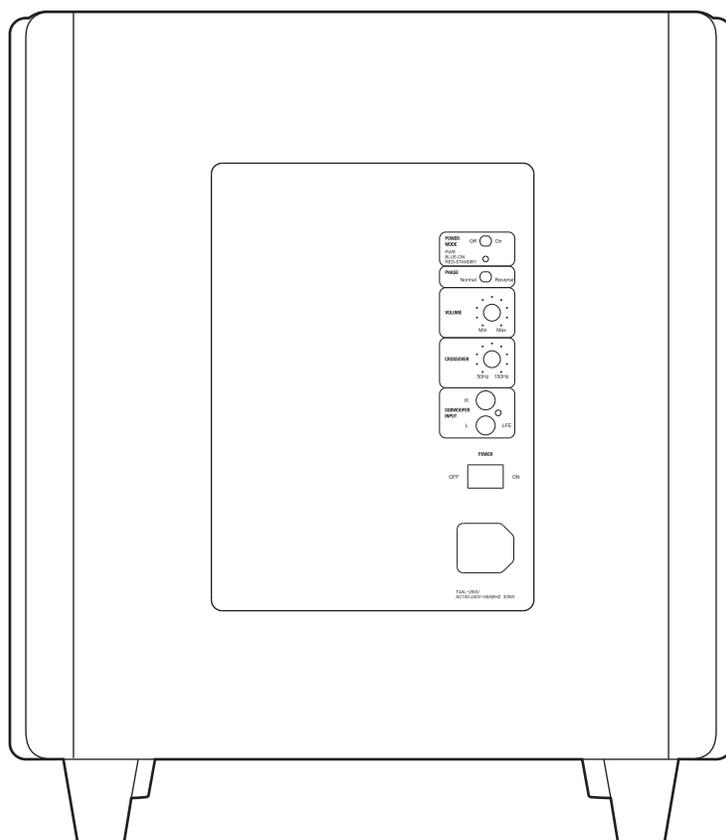


1X

注：電源プラグのタイプは地域によって異なります。

取扱説明書

## SUBWOOFERの背面パネル・コントロールおよび接続



### 1) パワーモード:

「オート」ポジションに切り替えると、subwooferは次にスタンバイ・モードに入ります。オーディオ信号が検出されると自動的に電源が入り、約10分間オーディオ信号が検出されない場合、スタンバイ・モードに戻ります。このスイッチを「オン」にセットすると、電源スイッチが「オフ」になるまでsubwooferの電源は入ったままです。

### 2) オン/スタンバイLED:

電源スイッチが「オン」位置にある場合、subwooferがオンであろうとスタンバイ状態であろうと、このLEDが点灯します。

- LEDが青く光っている場合、subwooferの電源が入っています。
- LEDが赤く光っている場合、subwooferはスタンバイ・モードです。

### 3) 位相スイッチ:

このスイッチが、subwooferトランスデューサーがメインスピーカーと同相で、ピストンのように行き来する動きをするかどうかを決定します。subwooferがメインスピーカーと逆相で鳴っていた場合、メインスピーカーからの音波は部分的にsubwooferからの音波を相殺し、バス・パフォーマンスと音のインパクトを低下させます。この現象は、リスニング・ポジションに対する全スピーカー、および部屋内での各スピーカーの設置場所によってある程度決まります。

### 4) クロスオーバー・コントロール:

このコントロールは、subwooferがサウンドを再生する最大周波数を決定します。設定するクロスオーバー・コントロールが高ければ高いほど、subwooferが作動する周波数も高くなり、低音がスピーカーの低音とより「オーバーラップ」します。この調整により、様々な違う部屋やサブウーファーの位置にかかわらず、subwooferとスピーカー間のバス周波数のスムーズな移行が実現します。

### 5) ボリューム:

このコントロールを使用して、subwooferのボリュームを調節してください。つまみを時計回りに回すとボリュームが上がり、反時計回りに回すとボリュームが下がります。

### 6) Subwoofer(LFE入力):

Subwooferをレシーバー/プロセッサのsubwoofer /LFE専用出力に接続してください。

### 7) 電源スイッチ:

Subwoofer の電源を入れるには、このスイッチを「オン」位置にセットしてください。外出したり、長時間subwoofer を使用しない場合は、電力を節約するためにこのスイッチを「オフ」位置にセットしてください。

### 8) 電源入力:

Subwoofer の入力接続をして確認した後、subwoofer を適切に作動させるために、電源コードをアクティブでスイッチ・コントロール式でない電源コンセントに差し込んでください。いくつかのオーディオ製品に見られる付属の差し込み口に、この電源コードを絶対に差し込まないでください。

## SUBWOOFERの設置

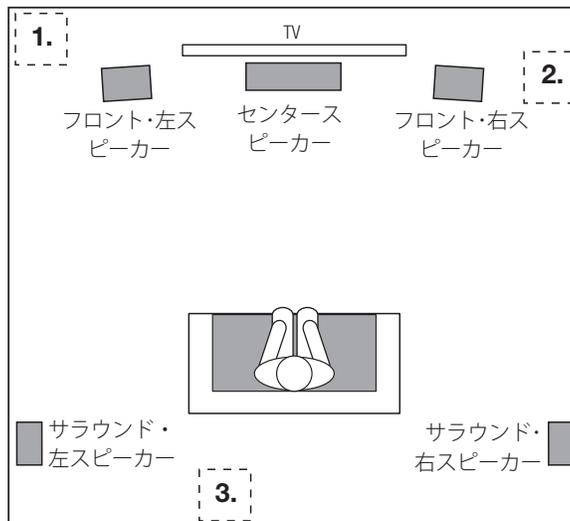
subwooferのパフォーマンスは、リスニングルーム内の設置とシステムの他のスピーカーに対する物理的位置に直接関係しています。

一般に、私たちの耳がsubwooferが作動する位置での低域特性の指向性サウンドを聴き取れないのは事実です。一方、subwooferを、ある部屋の限られた領域内に設置する場合、部屋の内部で起こる反射、定在波、吸収がsubwooferシステムのパフォーマンスに強い影響を与えます。結果として、部屋内のsubwooferの特定の位置が、生み出される低音の量と質にとってきわめて重要になります。

例えば、一般的にsubwooferを壁のそばへ設置すると、部屋の低音量が増加します。一般的に隅(1)に置くと、部屋の低音量が最大になります。しかし、隅への設置は、バス・パフォーマンスに関する定在波のマイナスの影響をも増強させる可能性があります。この影響はリスニング・ポジションに応じて変化する可能性があります。あるリスニング・ポジションでは非常に良い結果をもたらすことがありますが、別のポジションでは、特定の周波数で低音があまりにも強く(弱く)なりすぎる可能性があります。

多くの部屋では、左右のスピーカー同じ平面(2)にsubwooferを置くと、subwooferと左右のスピーカーのサウンドに最高の融合が生まれる可能性があります。一部の部屋で最高のパフォーマンスが得られたのは、リスニングポジションの背後(3)にsubwooferを設置した結果です。

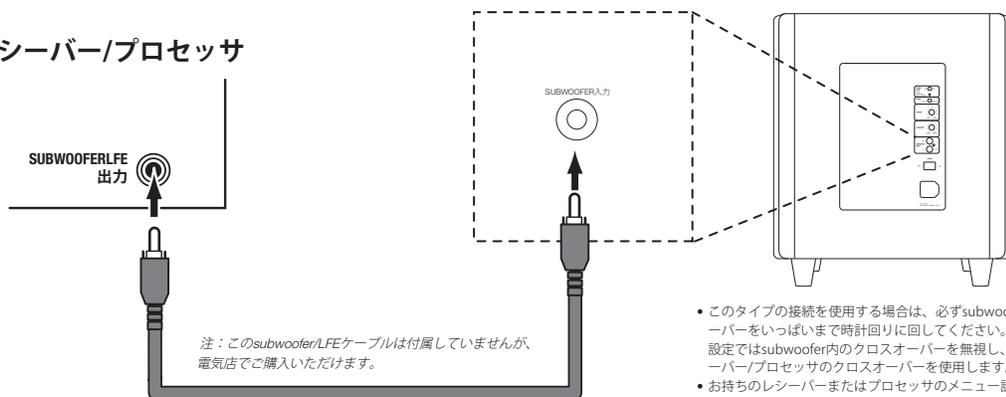
subwooferの最終的な位置を選択する前に、設置場所を試されることを強くお勧めします。subwooferの最高の位置を決められる方法の一つは、一時的にリスニングポジション内に置いて、強い低音を含んだ音楽をかけることです。システムが音楽を再生しているうちに(subwooferが置かれていた位置に両耳を置く)、部屋の色々な場所に動かしてみて、最高の低音パフォーマンスの位置を発見するまでリスニングしてください。subwooferをその位置に設置してください。



## SUBWOOFERの接続

ローパス・フィルターSUBWOOFER専用出力(LFE)付レシーバーまたはプリアンプ/プロセッサについて

### レシーバー/プロセッサ

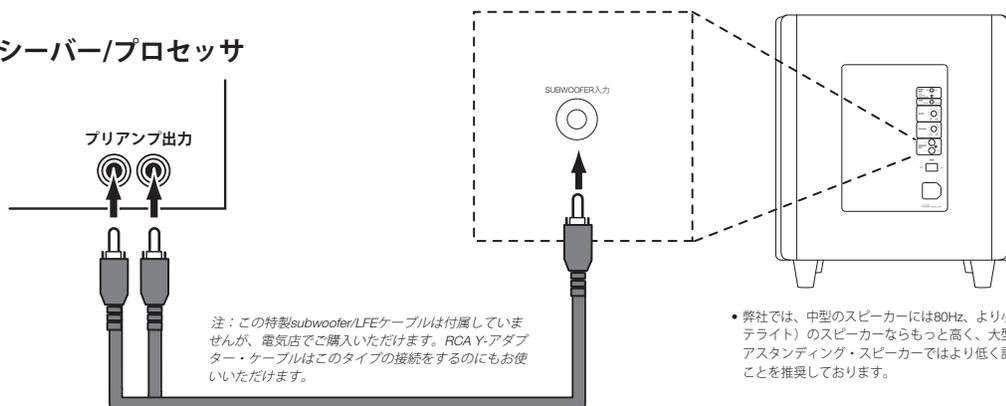


- このタイプの接続を使用する場合は、必ずsubwooferのクロスオーバーをいっぱいまで時計回りに回してください。このタイプの設定ではsubwoofer内のクロスオーバーを無視し、お持ちのレシーバー/プロセッサのクロスオーバーを使用します。
- お持ちのレシーバーまたはプロセッサのメニュー設定をチェックし、subwooferの選択を「オン」または「はい」にセットしてください。

スピーカーの設定および構成の詳細については、必ずレシーバーまたはプロセッサの取扱説明書を再確認してください。

プリアンプ出力を備えたレシーバーまたはプリアンプ/プロセッサについて

### レシーバー/プロセッサ



- 弊社では、中型のスピーカーには80Hz、より小型(サテライト)のスピーカーならもっと高く、大型のプロアスタンディング・スピーカーではより低く設定することを推奨しております。

## STUDIO 650P

### 250Wアンプ搭載、10インチパワードSub-wooferシステム

- 10インチ(254mm)径 PolyPlasウーファー
- 出力：250W
- 再生周波数特性：30 Hz～150 Hz
- クロスオーバー周波数：50Hz～150Hz(可変式)24dB/オクターブ
- コントロール：オートパワー、クロスオーバー、レベル、位相
- 入力：ライン×1レベルLFE入力
- エンクロージャー・タイプ：ボトム・ファイアリング・チューンド・バスポート・リフレックス
- 電源電圧：120V, 60Hz (US); 220V-230V, 50/60Hz (EU)
- 消費電力(アイドル/フル/パワー) 0.5W未満(スタンバイ) / 310W/1.4A (最大-230V) / 320W/2.7A (最大-120V)
- 寸法(幅×奥行×高さ)：395×395×395mm
- 重量：23kg

## SUBWOOFERの操作

### SUBWOOFERのオンとオフの切り替え

subwooferの電源スイッチを「オン」にします。次に、subwooferのパワーモードを「オート」位置にセットしてください。Subwooferはオーディオ信号を受けると自動的にスイッチが入り、約10分間オーディオ信号を受けない場合はスタンバイ・モードに入ります。subwooferがオンの場合はLEDが青く光り、スタンバイ状態の場合は赤く光ります。

subwooferを長時間使用しない場合(例えば休暇で出かけている場合は)電源スイッチを「オフ」位置にセットしてください。

### SUBWOOFERの調整: クロスオーバー

クロスオーバー・コントロールは、50Hz～150Hzの間でsubwooferの内蔵ローパス・フィルター・クロスオーバーを調節します。設定するクロスオーバー・コントロールが高ければ高いほど、subwooferが作動する周波数も高くなり、低音がスピーカーの低音とより「オーバーラップ」します。この調整により、様々な違う部屋やsubwooferの位置にかかわらず、サブウーファーとスピーカー間のバス周波数のスムーズな移行が実現します。

クロスオーバー・コントロールを設定するために、低音の滑らかさに耳を傾けてください。低音が特定の周波数で強すぎるように思える場合は、より低いクロスオーバー・コントロール設定をお試しください。低音が特定の周波数で弱すぎるように思える場合は、より高いクロスオーバー・コントロール設定をお試しください。

### SUBWOOFERの調整: ボリューム

ボリューム・コントロールを使用して、subwooferのボリュームを設定してください。つまみを時計回りに回すとsubwooferのボリュームが増大し、反時計回りに回すとボリュームが減少します。一度システム内の他のスピーカーとsubwooferのボリュームのバランスを取れば、ボリューム・コントロール設定を変更する必要はありません。

### Subwooferボリューム設定時の注意：

- 音楽向けの理想的なsubwooferボリューム設定は映画では大きすぎることがあります。また、映画向けの理想的な設定は音楽を聴くには小さすぎます。subwooferのボリュームを設定する場合、音楽と映画両方の強い低音をお聴きになって、双方に合った「妥協できる」ボリューム・レベルをお探しください。
- subwooferの音が大きすぎる、または小さすぎるように感じる場合、異なった位置にサブウーファーを置いてみてください。さらにsubwooferを部屋の隅に置くと低音出力が増加する傾向があり、壁または隅から離して置くと低音出力が減少する傾向があります。



ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ株式会社  
(HARMAN International Industries, Inc.)  
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA

© 2019 HARMAN International Industries, Inc./ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ株式会社 無断複写・転載を禁じます。

JBLは、ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ 株式会社(HARMAN International Industries, Incorporated)の、米国および/またはその他の国々の登録商標です。

特徴、仕様および外観は、予告なしに変更されることがあります。

www.jbl.com

## STUDIO 660P

### 500Wアンプ搭載、12インチパワードSub-wooferシステム

- 12インチ(305mm)径PolyPlasウーファー
- 出力：500W
- 周波数特性：28 Hz～150 Hz
- クロスオーバー周波数：50Hz～150Hz(可変式) 24 dB/オクターブ
- コントロール：オートパワー、クロスオーバー、レベル、位相
- 入力：ライン×1レベルLFE入力
- エンクロージャー・タイプ：ボトム・ファイアリング・チューンド・バスポート・リフレックス
- 電源電圧：120V, 60Hz (US); 220V-230V, 50/60Hz (EU)
- 消費電力(アイドル/フル/パワー) 0.5W未満(スタンバイ) / 572W/2.5A (最大-230V) / 600W/5.2A (最大-120V)
- 寸法(幅×奥行×高さ)：420×420×420 mm
- 重量：25.1kg

### SUBWOOFERの調整: 位相

subwooferドライバーがスピーカーと同相で、ピストンのように行き来する動きをするかどうかを位相・スイッチが決定します。subwooferがスピーカーと逆相で鳴っていた場合、スピーカーからの音波は部分的にサブウーファーからの音波を相殺し、バス・パフォーマンスと音のインパクトを低下させます。この現象は、スピーカー同士、および部屋の中のリリスナーに対する全スピーカーの設置場所によってある程度決まります。

ほとんどの場合、フェーズ・スイッチは「ノーマル」位置のままにしておくべきですが、位相・スイッチについては絶対に正しい設定は存在しません。subwooferが適切にスピーカーと同相である場合、サウンドはよりクリアになり、最高のインパクトがあって、ドラムのような打楽器のサウンド、ピアノ、弦楽器のサウンドがより生き生きと聞こえます。フェーズ・スイッチを設定する最良の方法は、よく知っている音楽を聴き、ドラムや他の打楽器のサウンドが最高のインパクトを持つ位置にスイッチを設定することです。

### 付属のカーペット・スパイクを使用

subwooferをカーペットの上に設置した場合に使えるように、4個の金属スパイクが付属しております。カーペットが敷かれていない床にsubwooferを設置する場合は、これらのスパイクを使用しないでください。

### スパイクをはめ込むには：

1. 柔らかくて傷の付かない面に、subwooferを側面を下にして（前面または背面を下にせず）そっと倒してください。
2. それぞれの脚に各スパイクをねじ込んでください。4つ全てのスパイクが完全に安定してねじ込まれたことをご確認ください。

**注：**動かすために、決してsubwooferを引きずらないでください。常にsubwooferを注意深く持ち上げ、新しい位置にお運びください。



EN : For additional languages, please visit jbl.com  
FR : Pour les autres langues, veuillez visiter jbl.com  
ES : Para obtener otros idiomas, visite jbl.com  
DE : Informationen in weiteren Sprachen findest du unter jbl.com  
IT : Per altre lingue, visitate jbl.com  
NL : Voor andere talen kun je terecht op jbl.com  
NO : For flere språk, ga til jbl.com  
FI : Muita kieliä varten, käy sivustolla jbl.com  
SV : För ytterligare språk, gå till jbl.com  
DA : Der henvises til jbl.com for yderligere sprog  
PL : W przypadku innych języków odwiedź stronę jbl.com  
RU : Если вам нужны версии на других языках, перейдите на сайт jbl.com  
ID : Untuk bahasa lainnya, silakan kunjungi jbl.com  
JP : 他の言語で読むには、jbl.comにアクセスしてください  
KO : 추가 언어에 대해서는 jbl.com에서 확인하십시오  
CHN : 如需其他语言, 请访问 jbl.com  
PT : Para outros idiomas, acesse jbl.com  
CHT : 如需其他語言, 請訪問 jbl.com  
HE : לפרטים נוספים, ביקרו באתר jbl.com  
AR : للغة الإضافية، يرجى زيارة jbl.com